

健康食品業界 アドバンスセミナーのお知らせ

2025 年 2 月 14 日（金）13:30～16:40 ～オンライン配信（Zoom）／当協会 3 階会議室～

業務を担当して 5～6 年の方を対象とした内容です

- ・「生活者ニーズに基づいて研究開発を進めるための考え方～生活者調査の活用とシーズ開発への接続～」
- ・「健康食品事業者のためのインターネット広告出稿講座 2025
～SNS 広告と成果報酬型広告を正しく活用して売上アップ～」 詳細は[こちら](#)

* アドバイザリースタッフ単位取得対象です

食品保健指導士【2 単位】、NR・サプリメントアドバイザー【5 単位】、健康食品管理士【5 単位】

問合せ先：研修企画部 E-mail kensyu@jhnfa.org

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 1 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

○ 記事のカテゴリー（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

[ピックアップ情報](#)

[安全性関連情報](#)

[海外公的機関情報](#)

[表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等](#)

[行政・法令関連情報（その他）](#)

[市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

[市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報](#)

[その他の食品関連科学・技術情報](#)

[その他の科学・技術情報](#)

[その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質）No.02（2025.01.22）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202502c.pdf>

別添 <https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202502ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【EC】 欧州委員会

1. 欧州委員会、食品接触物質及び成形品中のビスフェノール A(BPA)、その他のビスフェノール類及びビスフェノール誘導体の使用に関する欧州委員会規則(EU) 2024/3190 を官報で公表

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA は食品及び内服薬における Red No. 3（赤色 3 号）の使用許可を取り消す
2. FDA は PFAS に関連する 35 件の食品接触物質通知の認可はもはや有効ではないと決定した
4. FDA は赤ちゃん及び小さい子供向け加工食品の鉛の基準値に関する事業者向け最終ガイダンスを公表する
6. FDA はアレルギー、食品安全及び植物性代替食品の表示に関するガイダンスを公表する

【EPA】 米国環境保護庁

2. EPA は水域の PFAS レベルに関する健康影響に基づく勧告案を発表
3. EPA は 9 種類の PFAS を有害化学物質排出目録に追加登録
4. EPA、フタル酸ジイソデシル（DIDP）の TSCA リスク評価を最終決定
5. EPA は、DCHP の TSCA リスク評価案、フタル酸エステル類の累積リスク分析案、DIBP、DBP、DEHP、BBP のハザード技術支援文書案を発表

【CFIA】 カナダ食品検査庁

1. 選択された食品中のフラン、2-メチルフラン及び 3-メチルフラン（2021 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日）

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 1 月 17 日

前号の食品安全情報（化学物質） No.01 (2025.01.08)と一部重複があります。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

18. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の複雑な有機ヒ素化合物のリスク評価に関する科学的意見書の平易な言葉による要約を公表](#)
19. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の複雑な有機ヒ素化合物のリスク評価に関する科学的意見書を公表](#)
20. [英国毒性委員会\(COT\)、ターメリック及びクルクミン含有サプリメントがヒトの健康に及ぼす潜在的リスクに関する声明を公表](#)
43. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、香料グループ評価 420\(FGE. 420\)\(ヘスペレチンジヒドロカルコンの評価\)に関する科学的意見書を公表](#)
44. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中にショウガサプリメントを使用することの安全性に関する第 3 次声明草案を公表（前半 1/2）](#)
45. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中にショウガサプリメントを使用することの安全性に関する第 3 次声明草案を公表（後半 2/2）](#)
53. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事におけるエキナセアの潜在的健康影響に関するディスカッション・ペーパーを公表（前半 1/2）](#)
54. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事におけるエキナセアの潜在的健康影響に関するディスカッション・ペーパーを公表（後半 2/2）](#)
56. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品および飼料中の化学物質のリスク評価に関する国際的な取り組みを公表](#)
58. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中に摂取されるカルシジオールサプリメントの影響に関するディスカッションペーパーを公表（前半 1/2）](#)
59. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中に摂取されるカルシジオールサプリメントの影響に関するディスカッションペーパーを公表（後半 2/2）](#)

62. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024 年 12 月 2 日~12 月 13 日\)](#)
63. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ブラックベリー及びラズベリー中のヘキシチアゾクスに対するインポートトレランスの設定に関する理由を付した意見書を公表](#)
90. [英国毒性委員会\(COT\)、緑茶カテキンの肝毒性に関する声明を公表](#)

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）（器具・容器包装における安全性審査の導入及び第一種特定化学物質の取扱い関係）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/1/20

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&Mode=0&id=235110012](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&Mode=0&id=235110012)

「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（添加物（シクロデキストリン等 3 品目）に係る規格基準の設定及び改正）に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/1/23

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110005&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110005&Mode=1)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、健康訴求・健康維持に配慮した 飲料・アルコール飲料の市場調査、2025 年のウェルネス飲料市場は 1 兆 7460 億円に

マイライフニュース - 2025/1/14 <https://www.mylifenews.net/drink-food/75918/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、物価上昇やライフスタイルの変化とともにニーズが変わりつつあるウエルネス飲料・ウエルネスアルコール飲料の市場を調査した。その結果を「需要拡大が見込まれるウエルネス飲料・アルコール総市場調査 2024～2025」にまとめた。その結果、2025 年の国内市場予測（2023 年比）では、ウエルネス飲料が 1 兆 7460 億円（105.3%）ウエルネスアルコール飲料が 6431 億円（101.3%）に達すると予測する。実感を得やすい明確な訴求ポイントを持つ商品は引き続き伸長するとして-----

矢野経済研究所、栄養剤・流動食・栄養補給食品に関する調査、2023 年度の市場規模は前年度比 102.0%の 1514 億円と微増推移

マイライフニュース - 2025/1/21 <https://www.mylifenews.net/drink-food/76527/>

矢野経済研究所は、国内の栄養剤、流動食、栄養補給食品市場を調査し、セグメント別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。

2023 年度の栄養剤、流動食、栄養補給食品の市場規模（メーカー出荷金額ベース）は、前年度比 102.0%の 1514 億円と推計した。2023 年度の構成比を見ると、栄養剤の市場規模は前年度比 103.8%の 390 億円、流動食の市場規模は同 100.5%の 822 億円、栄養補給食品の市場規模は同 103.7%の 302 億円となっ-----

[記事のカテゴリー](#)に戻る

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

【医家向けサプリメント】25 年市場拡大に向け各社着々と

健康メディア.com - 2025/1/15 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20318

2024 年の医家向けサプリメント市場は、大きく売上を伸ばした企業もあった一方、全体的には微減となった。それでも、各社エビデンス研究や学会発表、海外展示会への出展などを経て、2025 年は新製品発売や輸出強化などを控え、市場拡大に向けたプラス材料がみられる。自由診療を行うクリニックも年々増えており、医家向けサプリメント販売増に期待が掛かる。キノコ抽出物、植物多糖体などの免疫系製品が市場を支える中、乳酸菌やビタミン、NMN など予防医療やエイジングケア向け製品も浸透してきた。これらの原料は、サプライヤーによる学会参加や論文発表など長年の活動が実り、医療機関で利用が広がって-----

【注目の“健脳”素材】優れた体感性で高リピート

健康メディア.com - 2025/1/15 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20329

2024 年の 65 歳以上の高齢者人口が過去最多の 3,625 万人を突破。高齢化率が 3 割目前に迫る中、認知症有病者が約 700 万人となると推計される 2025 年問題の初年度を迎えた。一方、厚労省の研究では、2012 年の調査よりも 2022 年の認知症有病率が低値だったと報告。中高年者層のヘルスリテラシーの高まりが考えられるとした。こうした中、認知機能をサポートする健食・サプリメント、機能性表示食品の市場も活発化。2024 年は 81 品目が受理され、累計 715 品に。対面販売チャネルで展開する企業からは、「売上がコロナ前に戻った」との明るい話題も。さらに、ADHD の児童、受験対策分野、e スポーツ分野など、健脳サプリメントの活躍の場は拡大し-----

【靈芝】海外で機能性キノコが脚光、日本靈芝に商機

健康メディア.com - 2025/1/15

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20325

伝統キノコ素材・靈芝は、免疫賦活作用をはじめ、様々な健康機能を有する。ファンクショナルマッシュルーム（機能性キノコ）がコロナ禍を契機に、海外で利用が広がる中、認知度に加え、体感性の高い靈芝の注目度が上昇。“日本産靈芝（Reishi）”は、優れた栽培・加工技術から海外の評価が高く、今後も需要増が見込まれる。国内市場は、インバウンド需要が回復基調にあるほか、高齢者を中心としたリピーター層に支えられ、堅調に推移する。一方、「女性ホルモン」「更年期」を切り口にフェムケア、メンテック商材としての利用も期待され-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

2025 年女性トレンド最前線！ペルソナ別インサイトで見る消費動向

ウーマンズラボ - 2025/1/28 <https://womanslabo.com/trend-250128-2>

本稿は、女性インサイト総研の株式会社ハー・ストーリィ（東京・港）による寄稿記事です。女性視点マーケティングで 30 年以上にわたり企業の商品開発やマーケティングを支援する同社の豊富な知見と女性調査をもとに、2025 年の女性市場の意識トレンドと消費トレンドをクラスター別に解説し-----

■ 消費者意識等の調査・分析

ファンケル健康ビッグデータ調査 第 1 弾

40 歳から 59 歳女性の更年期悩みと「食事」「睡眠」「運動」の関係性を解析

～ 「緑黄色野菜」「きのこ類」「全粒穀物」の摂取頻度が高い人、睡眠時間が「6 時間以上」の人、運動習慣が「週 2 回以上」の人は、更年期のお悩みを実感しにくい傾向 ～

株式会社ファンケル - 2025/1/22

https://www.fancl.jp/news/20250010/news_20250010.html

[31707] サプリメントの利用に関するアンケート調査（第 10 回）

マイボイスコム株式会社 https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31707

[31703] 調味料に関するアンケート調査（第 5 回）

マイボイスコム株式会社 https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31703

[記事のカテゴリに戻る](#)

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

緑茶に認知症予防効果？～65 歳以上の日本人約 9 千人の脳を解析

ケアネット - 2025/1/21 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/60004>

緑茶の摂取が認知症の予防につながる可能性が報告された。柴田 修太郎氏（金沢大学医薬保健学総合研究科 脳神経内科学）らの研究グループは、認知症のない 65 歳以上の日本人を対象として、緑茶およびコーヒーの摂取量と脳 MRI の関係を検討した。その結果、緑茶の摂取量が多いほど、脳白質病変容積が小さい傾向にあった。一方、コーヒーには脳 MRI の解析結果との関連はみられなかった。本研究結果は、npj Science of Food 誌 2025 年 1 月 7 日号に掲載され-----

追記：以下の URL から抄録と本文の閲覧が可能です。

<https://www.nature.com/articles/s41538-024-00364-w>

【日本大学】シナモンが新型コロナウイルス感染を阻害するメカニズムを解明

大学プレスセンター - 2025/1/24 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55469.html>

日本大学松戸歯学部 泉福英信教授を代表とする研究チームは、チューインガムなどに使われるシナモンミントやシナモンフレーバーなどの香料成分に新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染を阻害する働きがあることを世界で初めて解明しました。この研究結果は、2024 年 12 月 24 日に Current Research in Microbial Sciences 誌に発表され-----

睡眠の自己評価と客観評価に大きな乖離 筑波大学が報告

大学ジャーナルオンライン - 2025/1/25 <https://univ-journal.jp/251206/>

自覚的な睡眠時間や睡眠の質は、客観的な睡眠評価と乖離があることがわかった。筑波大学と同大学発スタートアップ企業である株式会社 S' UIMIN が発表した。-----

そこで本研究では、株式会社 S' UIMIN が開発した、自宅で簡単に睡眠時脳波を計測できる InSomnograf（インソムノグラフ）を用いて、被験者 421 人の自覚的な睡眠評価と客観的な睡眠評価を比較-----

ビフィズス菌研究 50 年以上の森永乳業が主導

新たなビフィズス菌数測定法改定案が国際規格に採択・発行

～乳製品中のビフィズス菌数をより安定的に測定することが可能に～

森永乳業株式会社 - 2025/1/21

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4490.html>

森永乳業は 50 年以上にわたり、ヒトの腸内にすみ、様々な健康効果をもたらしていると考えられているビフィズス菌の基礎研究を行い、製品へ応用しています。製品に含まれるビフィズス菌の生菌数値は、生理効果の指標に用いられ、また製品規格に使用されることから、その分析法は重要です。国際標準化機構（ISO）および国際酪農連盟（IDF）では、乳製品中のビフィズス菌数測定法として、ISO 29981 | IDF 220（乳製品－推定ビフィズス菌の菌数法－37℃におけるコロニー計数法）を 2010 年に初版発行しています。今回、より安定的に生菌数値を測定することを目的とし、当社が主導して上記国際標準法の改定に取り組みました。

まず、当社が発案した改定案は IDF 日本国内委員会から正式に IDF 本部へ提案され、改定のためのアクションチームが結成されました。本アクションチームのリーダーを当社の社員が担当し、ISO および IDF の改定に向けて取り組んだ結果、この度、改定案が国際規格として採択・発行され-----

線虫による実験で脳が老化する仕組みの一端を解明 名大

財形新聞 - 2025/1/15 <https://www.zaikei.co.jp/article/20250115/796966.html>

名古屋大学は 10 日、線虫の脳機能が老化する仕組みの一端を解明したと発表した。加齢によってある種のニューロンが過剰に活性化することで、正常なニューロンの神経回路が妨害され、脳機能の老化が引き起こされると-----

資生堂、東京科学大学との共同研究でオルタナティブオートファジーに新機能を発見

～紫外線による肌の光老化を抑制する働きを解明、毛葉香茶菜エキスを開発～

株式会社資生堂 - 2025/1/15

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003918>

資生堂は、東京科学大学の清水重臣特別教授との共同研究により、細胞内の不要な物質を分解し再構築するメカニズムとして知られるオートファジーの中でも、特に細胞が過度のダメージを負ったときに機能する“オルタナティブオートファジー”（図1）が、紫外線による肌の光老化を抑制する働きを持つことを明らかにしました。また、“オルタナティブオートファジー”を活性化させる「毛葉香茶菜(もうようこうちゃさい)エキス」を見出し-----

大阪大、PITTAN と、老化・炎症メカニズム解明のための3次元培養表皮モデルを用いた共同研究を開始—汗中の抗炎症物質や老化関連因子の分析により運動効果や老化の新たな評価手法の確立を目指す—

日経バイオテク ONLINE - 2025/1/14

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/25/01/14/22946/>

過剰なタンパク質接触を防ぐために体内で分泌される腸内分泌細胞とは？

マイナビニュース - 2025/1/14

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250114-3106708/>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 1 月 16 日～1 月 28 日掲載分から選定したものです。

カフェインにより投擲選手のパフォーマンスが向上する可能性 スペインのトップレベル選手での研究

<https://sndj-web.jp/news/003139.php> (2025/1/17)

カフェインのエルゴジェニック効果に関する新たなエビデンスが報告された。スペイン国内で12位以内に入るハイレベルの投擲選手を対象とする研究で、3mg/kgのカフェイン摂取がパフォーマンスを向上させたと-----

ホエイプロテインは心臓の健康に好影響？ 特に50歳未満や運動との併用で有用性が高い可能性

<https://sndj-web.jp/news/003141.php> (2025/1/18)

ホエイプロテインサプリメントが心臓の健康にも良いことを示唆するデータが報告された。システマティックレビューとメタ解析の結果、脂質関連指標に有意な保護的効果が認められ、50 未満や身体活動介入を並行して行った場合は、より有効性が高い可能性も示されて-----

野菜や果物の摂取量が多い人はフレイルのリスクが低い 米国国民健康栄養調査 4 万人の解析

<https://sndj-web.jp/news/003140.php> (2025/1/20)

米国国民健康栄養調査の大規模データを解析した研究から、野菜や果物の摂取量の多い人にはフレイルが少ないという関連のあることが報告された。ただし、果物のうち果汁（フルーツジュース）の摂取量は、中年期以降の場合この関連が非有意であり、一方、野菜に関しては緑黄色野菜でとくに関連が強く認められ、男性でも有意だという。中国の研究者の-----

ウコンの成分「クルクミン」がアスリートの運動誘発性筋肉損傷を軽減する？ 系統的レビュー

<https://sndj-web.jp/news/003142.php> (2025/1/21)

クルクミンによる運動誘発性筋損傷の軽減効果に関するシステマティックレビューの結果が報告された。その効果はさまざまな因子に左右されるが、摂取タイミングは運動後が良い可能性があることなどが述べられて-----

睡眠時間や睡眠の質の自己評価は間違いだらけ？ 睡眠の評価は客観的な計測が重要 筑波大学

<https://sndj-web.jp/news/003148.php> (2025/1/25)

睡眠時間や睡眠の質はアスリートにとって、回復や怪我のリスク、パフォーマンスに影響するため、正しい評価とそれに基づく自己管理が重要とされる。しかし、本人が自覚している睡眠時間や睡眠の質は当てにならないという研究結果が報告された。アスリート対象研究ではないが、十分に眠っていると感じている人の 45%に客観的な睡眠計測で睡眠不足が疑われ、反対に、睡眠に不調を感じている人の 66%は問題がないと-----

e スポーツアスリートのパフォーマンスがカフェインで向上 射撃テストや認知機能などで有意差

<https://sndj-web.jp/news/003147.php> (2025/1/28)

カフェインは、エリートレベルのeスポーツアスリートにとっても有用であることが報告された。クロスオーバー試験の結果、射撃テストや認知機能などの指標にプラセボとの有意差が認められたという。台湾からの-----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ その他の食品関連科学・技術情報

日立産機、温度と時間で変色するインクと品質可視化アプリを活用した食品の品質可視化ソリューションを提供開始

IoT NEWS - 2025/1/25 <https://iotnews.jp/manufacturing/260347/>

株式会社日立産機システム（以下、日立産機）は、経過時間と温度との積算値に応じて変色するインク「温度×時間センシングインク」を活用した、食品の品質可視化ソリューションについて、本格的な事業化を見据えた有償サンプルの提供を開始した。

「温度×時間センシングインク」は、低温環境ではゆっくりと、高温環境では早く変色する特性を持ち、温度に対する経過時間の積算値で一定の色に変化する。また、一度変わった色は元の色には戻らないという不可逆性を有して-----

マグロ刺身の“食べごろ”を散乱光で評価する新技術！ - 理研などが開発

マイナビニュース - 2025/1/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250127-3116416/>

■ その他の科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他

人材育成と、食品ロス削減の意識醸成を目指す、
カゴメと共立女子大学による、産学連携の取り組み

「もっと知ってもっと削減、トマトの有効活用プロジェクト」 学生が出荷規格外トマトの活用提案を発表

リアルな体験を通じ、学生の食品ロス削減への関心が向上

カゴメ株式会社 - 2025/1/27

<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2025/img/2025012701.pdf>

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、1月13日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていましてご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[規制レビュー：2024年に最も読まれたAPAC食品・飲料業界の規制・政策記事トップ10](#)

[2024 トップトレンド：今年のAPAC食品・飲料業界のトレンド記事トップ10](#)

[ビッグニュース 2024 FoodNavigator-Asia の今年最も読まれた記事トップ10](#)

[ニッポン フォーカス：2024年に最も読まれた日本の食品・飲料関連記事トップ10](#)

[ジャパンフォーカス：アサヒビールの売上急増、カクテル文化が促進するプレミアム化、サツマイモの輸出再検討など](#)

[記事のカテゴリーに戻る](#)

- 内容についての問合せ先：学術情報部 E-mail : gakuj@jhnfa.org
- 配信元 公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>
- 配信先の変更など 総務部 E-mail : kaiin@jhnfa.org

■ 学術誌「健康・栄養食品研究」論文募集のご案内

学術誌「健康・栄養食品研究」への投稿論文を随時募集しております。

当協会の学術誌「健康・栄養食品研究」は、健康食品に関するフリーアクセスジャーナル（2016年以降オンライン化）です。ヒト試験（介入試験等）以外の論文、研究会の報告、総説なども投稿できます。また、英文での投稿も受け付けております。

[「健康・栄養食品研究」ホームページ](#)（投稿規定、2016年以降の発刊論文など）

投稿先・問合せ先：学術情報部 E-mail : gakuj@jhnfa.org 電話番号：03-3268-3133

■ 「健康・栄養食品研究」掲載論文の転載をご希望の方へ

当協会指定の書式に必要事項を記入して、申請頂く必要がございます（料金はかかりません）。なお、販促資料への利用等の商業利用の場合は、申請の条件として「執筆者（又は資金提供者）への内容提示と了解取付」、「転載内容が分かる関連資料の提出」をお願いしております。申請書が必要な方は、学術情報部までご連絡下さい。

問合せ先：学術情報部

E-mail : gakuj@jhnfa.org

電話番号：03-3268-3133

以上